

よみがえる正倉院宝物——沖縄初公開

おきみゆ一通信

Okinawa Prefectural Museum and
Art Museum News Letter

vol.18 冬号



あなたの沖縄に出会う

今を遡ること約1260年前、聖武天皇が亡くなった際、その遺愛品が、妻・光明皇后によって奈良・東大寺の大仏に捧げられました。正倉院宝物はそれらを中心として形成された、奈良時代の器物、染織、古文書等の一大コレクションです。これらは考古遺物として発掘されたものではなく、校倉造の正倉院宝庫の中で、人々の手によって守られてきたことに特色があります。それゆえ、約9千件の多種多様な品が、極めて良好な状態で保存されているのです。

正倉院宝物の人気は高く、奈良国立博物館で毎年開催される「正倉院展」には、約2週間の会期中に通常20万人を超える人々が訪れます。そんな正倉院宝物を、沖縄の皆様にも是非ご鑑賞いただきたい、との思いがありました。しかし、保存状態がよいとはいえ、脆弱な宝物そのものを沖縄まで運ぶのは困難です。そこで、このたび正倉院宝物の再現模造の展覧会を開催する運びとなりました。

「な~んだ、模造品かあ」と、あなどることなれ。今回展示する再現模造は、見た目を似せただけのものと違い、本物を様々な分析手法で徹底的に調べ上げ、材質・構造・技法を忠実に再現した、「もう一つの本物」とも呼べる貴重な品々なのです。製作に携わったのも、人間国宝をはじめとする、高度な技術を身に付けた方ばかり。古代の知恵に学んだ技術者が、持てる技を駆使し、丹精込めて作り上げた、一流の工芸品でもあります。宝物には部分的な破損や変色も認めますが、再現模造は製作当初の姿を甦らせた品であり、本来の美しさがストレートに伝わってきます。

代表的な展示品をご紹介しましょう。沖縄では豊かな染織文化が育まれ、その織り方も地域ごとに特色が認められます。今回出品の模造 七条織成樹皮色袈裟は、「織成」という綴れ風の特殊な技法で作られた、聖武天皇が使用したとされる袈裟の再現品です。しなやかな風合いと、14色の緯糸が織り成す色どりは格別で、沖縄の皆様にも是非堪能していただきたいと思います。

また、8年という歳月を費やして昨年完成した模造 螺鈿紫檀五絃琵琶(表紙写真)も、今回の目玉の一つです(ただし、展示は前期のみ)。5本の絃を持つ琵琶は、世界で唯一正倉院に現存する古代の楽器。ボディーには紫檀材を用い、背面には南海産夜光貝の螺鈿とタイマイによって宝相華、すなわち想像上の豊麗な花を表しています。その絢爛豪華な装飾は必見です。会場では、再現された五絃琵琶

「よみがえる正倉院宝物」展の開催に寄せて

宮内庁正倉院事務所保存課長
飯田剛彦

の音色もお聴きいただけます。

再現模造は、宝物に代えて積極的に展示活用する目的で製作されたものですが、その製作過程自体にも意味があります。製作時における宝物の検討を通じて、かつて淘汰され、失われた古代の技術が多数解明されてきました。すなわち、模造製作事業は古代の技術の復興と後世への継承の営みといえましょう。展覧会では、宝物からいかなる技術が見出され、再現模造がどのように作られたのか、製作工程を示す資料やパネルを用いて丁寧に解説しています。

一方、模造製作事業は文化財保存における危機管理の一つでもあります。ものである以上、正倉院宝物も常に消滅の危機をはらんでいます。その危機意識に基づいて、宝物の材質・構造・技法を調べ上げてスペアを製作し、いざという時に備えているのです。昨年、不幸にも焼失した首里城は、血のにじむような努力で構造や技法の情報、材などをを集め、平成の再建にこぎ着けたと聞きます。そのことと関連して、再現模造という形で文化財の基礎情報を保存する正倉院の取り組みを紹介したいと思います。今回の展覧会が、現在進行形で首里城の再建に取り組んでおられる沖縄の皆様と、文化遺産の素晴らしさ、それを守り伝えることの意義について語り、分かち合う機会になれば、これほど嬉しいことはありません。

以上のように「よみがえる正倉院宝物」展は見どころ満載の展覧会です。是非会場に足をお運びいただき、正倉院宝物の再現模造を存分にお楽しみ下さい。



模造 七条織成樹皮色袈裟

【指定管理者企画展】

よみがえる正倉院宝物 一再現模造にみる天平の技一

2021年2月9日(火)～3月28日(日) 博物館企画展示室、特別展示室1・2

一般1,300円 高大800円 小中500円

※障がい者手帳お持ちの方と介助の方1名は当日料金の半額

主催：宮内庁正倉院事務所、(一財)沖縄美ら島財団、沖縄タイムス社、朝日新聞社、NHK沖縄放送局
共催：沖縄県立博物館・美術館



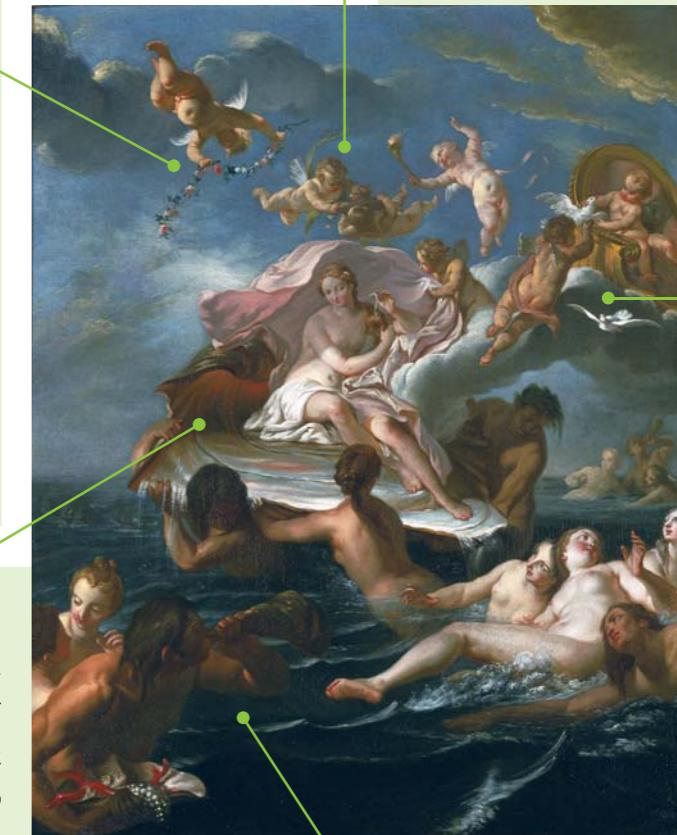
珠玉の
美術館コレクション
東京富士美術館
特別企画 図解!
『ヴィーナスの誕生』
西洋絵画の読み解き方

西洋美術には、伝統的な主題やお決まりの意味を担ったモチーフがあります。出品作品の一つ『ヴィーナスの誕生』にはどんな主題、モチーフが描かれているのでしょうか。
読み解いていきましょう。

Q. プットーたちが持っているのは?

左のプットーが持つのはバラの花綱です。美しく香しいバラはヴィーナスの持物^{*}。バラの棘の痛みは愛の痛手にもたとえられます。また右のプットーが持つのは松明です。愛の炎を象徴します。

*「持物」とは、その人物と結び付けられたアイテムのこと。



Q. ヴィーナスが座っているのは?

ギリシャ神話では、ヴィーナスは貝に乗り西風に吹かれてキュプロス島にたどり着いたといわれます。ボッティチエリの作品にはホタテ貝が描かれていますが、本作に描かれているのはアコヤガイのように見えます。いずれにしても、貝は「豊穣」を表し、女神を象徴するモチーフとなります。

その他のモチーフにも注目!

画面左奥から、二匹のイルカが勢いよく泳いでくるのが見えます。イルカはしばしば海の神とともに描かれる動物です。それからヴィーナスが手にしているのは真珠で、これも彼女の持物です。トリトンは真珠の他にもサンゴを持っているでしょうか。サンゴも海から採れる宝石ですね。

本作はヴィーナスにちなむモチーフをちりばめ、愛と美と豊穣の女神がこの世に現れたことを画面全体で表しているのです。

((一財)沖縄美ら島財団 学芸員 國吉貴奈)

Q. 「ヴィーナスの誕生」とは

ギリシャ神話のお話。天の神ウラノスは、自分の子どもたちを地中に埋める乱暴をはたらいたため、妻のガイアは復讐のため息子クロノスに大鎌を持たせ、ウラノスの男根を切り落としました。その男根が海に投げ捨てられたとき泡が生じ、そこから愛と美と豊穣の神ヴィーナスが生まれました。同主題を描いた、ボッティチエリの『ヴィーナスの誕生』(1489年、ウフィツィ美術館蔵)は有名ですね。

Q. 宙を飛ぶ裸の子どもは?

プットーといいます。ヴィーナスの息子で愛の神エロスから発展したキャラクターです。エロスは、当初は美しい青年として表されましたでしたが、やがて子どもの姿をとるようになりました。プットーはのちにはクピド(エロス)の従者として数多く描かれるようになりました。

Q. 海の上にハト?

二羽のハトはつがいとして表されており、ヴィーナスの持物です。「肉欲」の意味を持つ一方、ハトは一生添い遂げるとされたことから「純潔」の意味もあります。

ノエル=ニコラ・コワペル
『ヴィーナスの誕生』(1732年頃)
東京富士美術館所蔵

©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPPartcom

Q. ほら貝を吹いているのは誰?

海の神トリトン。海の神ネプチューンの子です。上半身は人間で魚の尾を持つ人魚として表されます。まわりの女性たちは海の精のネレイス。彼らは水面から身を乗り出し、ヴィーナスの誕生をにぎやかに祝っています。

【指定管理者企画展】

名画を読み解く

珠玉の東京富士美術館コレクション

2020年12月15日(火)～2021年1月31日(日)

美術館企画ギャラリー1・2

一般1,400円 高大1,000円 小中500円

※障がい者手帳お持ちの方と介助の方1名は当日料金の半額
主催:(一財)沖縄美ら島財団、沖縄テレビ放送株式会社

『美術館コレクション展』の見どころってなに? 作品の背景を知れば、鑑賞がもっと面白くなる!

コレクション
ギャラリー

沖縄美術の流れ -写真-

現在コレクションギャラリー1では、山田實の写真から、〈こどもたちのオキナワ〉のシリーズを紹介しています。このシリーズは、山田實の初めての写真集『こどもたちのオキナワ 1955-1965』(池宮商会、2002年)に掲載されたものです。

山田は1944年に召集を受け関東軍に入隊。翌年、ソ連軍の参戦により満州で交戦

している間に終戦を迎えます。その後、1947年までの間、ソ連のシベリアに留め置かれ(いわゆる「シベリア抑留」)、苛酷な労働を体験しました。抑留中は、「日本に帰っても女性、子どもはほとんどアメリカさんに殺されていない」と聞かされていたのですが、帰還を果たし舞鶴港に着いたとき、港には女性や子どもがいて、山田はとても驚き、涙を流したといいます。

写真集は、「那覇」、そして「こどもたち」というふたつの節に分かれて構成されています。山田が沖縄に帰還した1952年はまだ「家がぽつんぽつんと建っているだけ」で、「那覇」の節は、その復興期の様子を感じ取ることができます。山田は「焼土と化し荒廃した郷土の山野を無性に駆け回り」、動き動かされるように写真を撮っていました。砲弾を浴びた痕が

残る建物(写真1)や、守礼門前にあった大アカギ(写真2)など、写真には戦災の爪痕がはっきりと見てとれます。そうした風景に写り込む人の姿との対比が印象的です。

「こどもたち」の節は、こどもが集まって遊んでいる様子のほか、家事や仕事を手伝う様子の写真が並んでいます。山田は土門拳の『筑豊のこどもたち』(パトリア書店、1960年)の影響を受けたと語っていますが、山田の写真からは、生活の労苦が感じられる(写真3)一方で、時折見せる笑顔には、生き生きとしたこどもたちの様子が窺えます(写真4)。戦争と抑留からの帰還体験が、風景やこどもたちを見つめる目に少なからず影響を与え、それが山田実の写真の独自性を構成する重要な要素になったのではないでしょうか。(学芸員 亀海史明)



[写真1]《弾痕・那覇・牧志》(1959年)
展示期間 2021年4月6日～6月27日
掲載作品全て沖縄県立博物館・美術館蔵



[写真2]《ハンタン山 守礼の門復元の頃》(1959年)
展示期間 2021年1月13日～4月4日
掲載作品全て沖縄県立博物館・美術館蔵



[写真3]《水くみの姉妹・那覇・安里》(1958年)
展示期間 2021年1月13日～4月4日
掲載作品全て沖縄県立博物館・美術館蔵



[写真4]《水運びの少年たち・玉城村・奥武島》(1967年)※2021年1月11日までの展示
掲載作品全て沖縄県立博物館・美術館蔵

2 子どもの情景

コレクション
ギャラリー

掲載作品全て
沖縄県立博物館・美術館蔵

テントウムシは、その姿がかわいいらしいこともあって、日本でも西洋でも、幸福を運んでくれる縁起のよいものとして知られています。1973年に流行した歌謡曲「てんとう虫のサンバ」(歌=チエリッシュ)は、結婚式の余興でダンスを披露されることもありますね。



沖縄の洋画家、榎本正治(えのもと・まさはる、1913-1964年)の作品《てんとうむし》は、キャンバスに油絵具で描かれていますが、少女の腕にとまっているテントウムシには、ある工夫がされています。展示会場で、実物をご覧下さい。

洋画家の大嶺政寛(おおみね・せいかん、1910-1987年)は、沖縄的な風景美を描かせたら、この人の右に出る画家はないといわれていますが、実は意外な顔を持ち合わせています。大嶺は、1959年のインタビュー記事に自身の「ネコ好き」を明かしていますが、一時は13匹(!!)も飼っていて、ネコの食事からウンチの世話をいたるまで全部をこなしていました。



出品作の《尚子像》には、無垢なものを愛おしむまなざしが、ネコだけではなく、少女の姿にも注がれています。この少女は、娘の尚子を描いたものです。《尚子像》は、数少ない大嶺の人物画であると同時に、コワモテ(すいません...)の巨匠が、無類の猫好きであることが伝わる、優しい雰囲気の作品です。

このように、見どころ満載の《子どもの情景》展ですが、他にも玉那覇正吉(たまなは・せいきち、1918-1984年)の木彫《蝸牛》など3点の初出品もあわせて30点を展示しています。本展覧会で沖縄美術の新たな魅力を感じていただけるでしょう。

(主任学芸員 豊見山 愛)

通年開催している『美術館コレクション展』。今回は「沖縄美術の流れー写真ー(山田實作品〈こどもたちのオキナワシリーズ〉)」「子どもの情景」「沖縄美術の流れ」を開催しています。

普段は聞くことができない、作品の見どころやストーリーなどを展覧会の担当学芸員が紹介します。

2020年10月20日(火)～2021年6月27日(日)

一般 400円 高校・大学生 220円 小・中学生[県外]100円

※70歳以上、県内小中学生、未就学児は無料

※障がい者手帳か療育手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料

コレクション ギャラリー 3 沖縄美術の流れ

安谷屋 正義 (1921-1967)

この作品が描かれたのは1965年、占領下の沖縄で、ベトナム戦争が激しさを一段と増し、沖縄の米軍基地から多くの米兵が出兵した頃です。陽炎が立つような、真っ白な米軍飛行場の滑走路が描かれています。視線を地に落とし、立ち尽くす一人の兵士は、異国にいて故郷に思いを馳せる青年の心情を映しているのでしょうか。安谷屋も20代前半に、兵士として異国地を踏んでいます。

安谷屋の作品は、「安谷屋の白」と呼ばれ、静寂と緊張感が感じられます。白を基調として無駄な線一つない洗練された画面の中には、沖縄の多くの社会状況が表されています。

あれから55年、沖縄の風景や生活は大きく変化していますが、依然として沖縄を取り巻く状況には変わらないものがあります。安谷屋が残した作品は、今もなお時代を超えて私たちに問いかけ、ずしりと心に響きます。



安谷屋正義《望郷》(1965年) 沖縄県立博物館・美術館蔵

【作家略歴】

東京美術学校图案科卒業。戦後、沖縄に帰郷しニシミイ美術村の建設に携わりました。琉球大学で教師となり、1960年代には基地をテーマにした作品を発表しています。1967年、将来を期待されていましたが46歳で亡くなりました。

山城えりか (1979-)

山城の作品には、物語性があります。主人公はいつも女性であり、自身の憧れである女性像が描かれています。山城は、「フェミニン」「ガーリー」などの好み、その空間にいるエネルギーを貢献と語っています。その時のときめく高揚感をキャンバスという宝石箱に、自分の宝物を詰め込むという感覚で作品を描いています。画面の動植物は、女性を飾るアクセサリーのように描き足され、ストーリーが広がっていきます。



山城えりか《vortex》(2007-2011年) ©Erika Yamashiro 寄託作品

【作家略歴】

女子美術短期大学を卒業後、東京・アメリカ・香港などで展示活動を行ってきました。2013年から沖縄を拠点に子育てをしながら活動しています。作品の形式を越えて芥川賞受賞作家、金原ひとみや直木賞作家などの小説装画も多数手掛け、独特の画風で活字の世界を彩り、広げています。



《薰風》は6mの大作で、春から夏に移り変わり色彩が豊かになっていく様を描いています。香り立つような彼女自身の色の感覚や世界観を引き出せるのは、沖縄の亜熱帯特有の色彩に囲まれてきたことその使いや色感でしょう。沖縄の動植物クロトンやブーゲンビリア、ハイビスカス、アサギマダラを中心にモチーフの形や色を重ね合わせ、「寒冷紗」を独自に用いて幻想的に仕上げています。

(主任学芸員 富原圭子)



体験学習教室 タッチカービング・ワークショップ

2020年11月15日に千葉県より内山先生をお招きし、沖縄盲学校の児童生徒9名の皆さんを対象に「タッチカービング・ワークショップ」を実施しました。

どんなワークショップだったの？

テーマはズバリ『ものさし鳥』。『ものさし鳥』とは、大きさの基準となる鳥たちのこと、野鳥観察の際によく活用されます。内山先生は、5種類の『ものさし鳥』のタッチカービングを作成し、長年各地の盲学校で出前授業を実践してこられました。視覚障害の方々が『ものさし鳥』の大きさや形を覚えておくと、野鳥の声を聞いたとき、具体的なイメージを持てるようになり、ひいてはその後の人生が豊かになるのだと内山先生はおっしゃいます。今回は『ものさし鳥』に加えて、当館が製作を依頼したヤンバルクイナのタッチカービングも完成していましたので、内山先生のお話を聞きながら、じっくり触ってもらいました。

実施した手ごたえは？

内山先生は、鳥たちの大きさや形が印象に残るよう、くちばしの使い方など生活の様子も交えて丁寧に説明されるので、子供たちはそれぞれの鳥について具体的なイメージを持つことができたようでした。内山先生の視覚障害を持つ子供たちへの熱い眼差し、可能性を信じる姿勢に感化され、子供たちは鳥についてさらに知りたい、という意欲を掻き立てられていました。

しつづくりに、沖縄でよく見かける鳥たちの声を聴いて、引率の先生方にその鳥の剥製と『ものさし鳥』を比較しながら特徴を伝えてもらう演習をしました。一生懸命に伝えようとする先生方と熱心に耳を傾ける生徒のみなさんを見ていると、このワークショップが今後につながっているのだと実感することができました。(主任学芸員 菊川章)



1・2・3月のイベント情報



Museum 博物館

文化講座 無料

[各回] 時間 14:00~16:00 場所 講堂 定員 100名
※事前申込。定員など詳細はHPやチラシをご確認ください。

1/16(土) 藍とわたし 時間 14:00~17:00
講師 新道弘之氏 (ちいさな藍美術館館長)

2/20(土) 近年の発掘調査報告(仮)
講師 渡久地真氏 (中城村教育委員会)
玉城靖氏 (今帰仁村教育委員会)
横尾昌樹氏 (うるま市教育委員会)

3/13(土) 琉球国時代の石碑群について(仮)
講師 藤田勲夫氏 (文化庁文化財課第一課)

博物館学芸員講座 無料

[各回] 時間 14:00~16:00 (開場13:30) ※事前申込。定員など詳細はHPやチラシをご確認ください。

1/9(土) 山の暮らしと琉球藍について
講師 大湾ゆかり【民俗】 場所 講堂 定員 100名

2/13(土) フィールドツアー②
2/13の学芸員講座は博物館の外へとび出そう!
沖縄本島南部の自然観察へ行こう!
講師 宇佐美賢【地学】 菊川章【生物】
参加費 50円 ※保険料として 定員 15名

3/6(土) 古琉球についての考察(仮)
講師 崎原恭子【歴史】
場所 博物館講座室 定員 50名

「沖縄の藍」関連イベント

1/15(金) 展示解説会
時間 18:30~19:30 場所 博物館企画展示室・特別展示室1 定員 15名
※当日18:15より博物館企画展示室前で受付 ※当日有効の観覧券が必要

体験教室

[各回] 時間 ①10:00~12:00 対象:小1~中3(親子)
②14:00~16:00 対象:高校生以上
場所 博物館実習室 定員 各回10名

1/31(日) 勾玉のはなしと勾玉づくり
講師 山本正昭【考古】 宇佐美賢【地学】
参加費 ①800円 ②500円

2/6(土) ヤコウガイのひみつを知り
アクセサリーをつくろう!
講師 池村茂氏 (工房海彩代表) 参加費 ①②2,000円

Art Museum 美術館

「名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-」
関連催事

1/9(土)・17(日)・24(日) 展示解説会

時間 14:00~15:00 定員 1/9(25名) 1/17, 1/24(50名)
※当日有効の観覧券が必要 ※当日13:30より総合案内付近で整理券配布

美術館ミュージアムツアーア

1/23(土) 担当 豊見山愛(調査研究担当)

時間 10:30~12:00 (10:20までに「美術館ホワイエ」集合)
定員 12名 ※当日有効の美術館コレクションギャラリーの観覧券が必要
※実施日の1か月前から来館、電話にて受付

『OKINAWA』アートワークショップ2020

※申し込み方法など詳細はHPやチラシをご確認ください

2/6(土) 琉球漆器 沈金を楽しもう

時間 9:30~12:30 参加費 3,000円
定員 15名 講師 漆実験工房の皆さん

博物館常設展 展示解説会

[各回] 時間 14:00~15:00 場所 博物館常設展示室 定員 10名
※当日13:30よりふれあい体験室前で受付 ※当日有効の観覧券が必要

1/14(木) 民俗 2/11(木) 歴史 3/11(木) 民俗
講師 阿利よし乃 講師 崎原恭子 講師 大湾ゆかり

バックヤードツアー

[各回] 時間 14:00~15:00 集合場所 ふれあい体験室前(13:55までに集合)
定員 6名 ※実施日の1週間前から来館、電話にて受付

1/30(土) 人類 2/27(土) 民俗 3/20(土) 歴史
講師 山崎真治 講師 大湾ゆかり 講師 崎原恭子

ふれあい体験室ワークショップ【1月~3月】

毎週土曜 開催 ふれたい博士の
ティラジヤーでコマあそび!

時間 1回目 10:00 2回目 10:30 3回目 11:00 4回目 11:30
※所要時間30分 ※事前申込

場所 ふれあい体験室前 参加費 300円 定員 24名(各回6名)



[開館時間] 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)
※1/2 (土) は18:00まで ※入館は閉館30分前まで

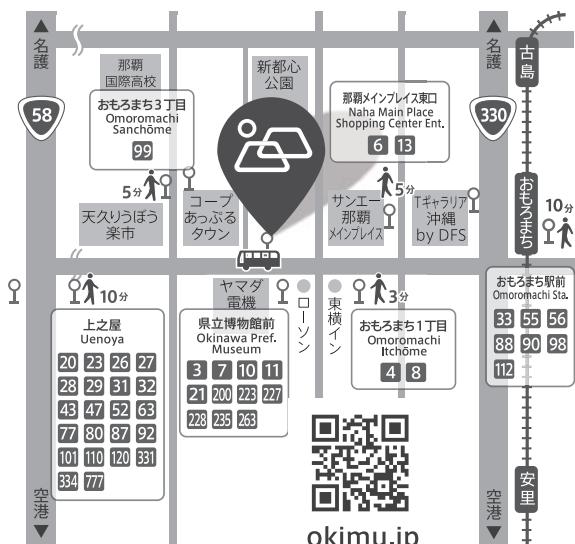
[休館日] 月曜日、12/31、1/1、1/12 ※1/4、3/15、3/22は開館
(月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)
メンテナンス休館 3/1～3/4
※休館日は変更することがあります。
当館ホームページをご覧ください。

[ホームページ] <https://okimu.jp>

来館する皆様へのお願い



- ◆発熱や風邪、体調がすぐれないお客様は来館をお控えください。
- ◆マスク着用をお願いします。
- ◆こまめな手洗い・手指消毒にご協力ください。
- ◆展示室内では、他のお客様と間隔(2m程度)を空けてご観賞ください。また、展示室内の混雑をさけるため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。



アクセス

駐車場は台数が限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
【ゆいレール】おもろまち駅下車（徒歩10分）

編集後記

現在開催中の「名画を読み解く－珠玉の東京富士美術館コレクション－」展(会期:12/15～1/31)。本展の広報は「楽しみながらやってみよう！」という話になり、マグリットの《観念》をモチーフに「りんごちゃん」というキャラクターが誕生しました!! 現在Twitterを中心に活躍?しています(笑)。「りんごちゃん」をつくってくれたHさん、Tさんありがとうございました! 「りんごちゃん」は稀にエントランスホールなどに出没します。見つけたら写真撮影をしてあげてください♪ (博ひと)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.18 冬号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2020年12月29日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団

今号の「おきみゅー通信」いかがでしたでしょうか？ ぜひ、みなさまの声をお聞かせください。ご回答いただいたご意見は今後の「おきみゅー通信の企画・連載」「企画展やイベント」等に活用させていただきます。本アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で3名様に「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」の招待券(ペア)をプレゼントいたします。

なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートはこちらから!▶

